

はじめに

奈良県高等学校美術・工芸教育研究会  
会長 倉田嘉人

会員の皆様におかれましては、日頃より本研究会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

三年ごとに発行しております研究紀要が完成いたしました。本紀要は、会員各位の実践研究の成果を共有し、今後の美術・工芸教育の発展に資することを目的としております。

現在の学習指導要領において、美術及び工芸教育は「造形的な見方・考え方を働かせ、発想や構想をもとに表現や鑑賞を行い、豊かな情操を育むこと」に重点が置かれています。これは単に技能の習得にとどまらず、生徒が主体的に美的価値を見出し、自らの思考を深めることを目的としています。さらに、探究的な学びの中で他者との対話を重視し、多様な価値観を受け入れる姿勢を育むことも求められています。このような教育を通じて、生徒は創造性や批判的思考力を養い、社会において柔軟に思考し行動できる力を身に付けていきます。

ところで、最近、ビジネスや教育の分野において「アート思考」という言葉が注目を集めています。「アート思考」とは、アーティストが作品を制作する過程で用いる思考法を、課題解決や新たな価値創造に応用する考え方です。具体的には、観察力、発想力、表現力、そして、試行錯誤を繰り返す力を育むことを目的としています。

美術・工芸教育は、まさに「アート思考」を育むための土壌となり得るものです。生徒たちは、作品制作を通して、既成概念にとらわれず、自由な発想で課題に取り組むことができます。また、自己表現力を高め、他者とのコミュニケーション能力を養うことも期待できます。

このような背景を踏まえ、本研究会では、会員各位による授業実践の報告や、地域文化を活用した教材開発の事例など、多岐にわたる研究活動を行ってまいりました。

本紀要では、これらの研究成果を余すことなく掲載しております。会員各位が日々の教育活動の中で培ってきた経験や知識、そして情熱が、それぞれのページから伝わってくると思います。

また、これらの事例は、今後の美術・工芸教育を考える上で、貴重な資料となるものと確信しております。会員各位におかれましては、本紀要を参考に、それぞれの教育現場で、より質の高い美術・工芸教育を実践していただければ幸いです。

本研究会は、今後も、会員各位の協力を得ながら、美術・工芸教育の質の向上を目指し、研究活動を推進してまいります。会員各位におかれましては、今後とも、本研究会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ではございますが、本紀要の刊行にご尽力いただきました会員各位、関係各位に深く感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 「豊かな感性を育む」題材の 授業実践例